

**FY2018（2019年3月期）
第3四半期（10-12月）
決算説明会資料**

**株式会社島津製作所
取締役専務執行役員 古澤宏二**

2019年2月6日

目次

1. F Y 2018 3 Q決算
2. F Y 2018 3 Qセグメント別業績
3. F Y 2018 通期予想
4. 補足資料

1. F Y 2018 3 Q決算

2. F Y 2018 3 Qセグメント別業績

3. F Y 2018 通期予想

4. 補足資料

FY2018 第3四半期（10-12月）決算ハイライト



業績過去最高

- 売上高 : 全社、セグメントでは計測・医用・産業
- 営業利益 : 全社、セグメントでは計測・産業

セグメント 営業利益率の 改善

- 計測 : 15.4%と前同比0.3ポイント改善
- 産業 : 9.7%と前同比0.8ポイント改善

損益計算書

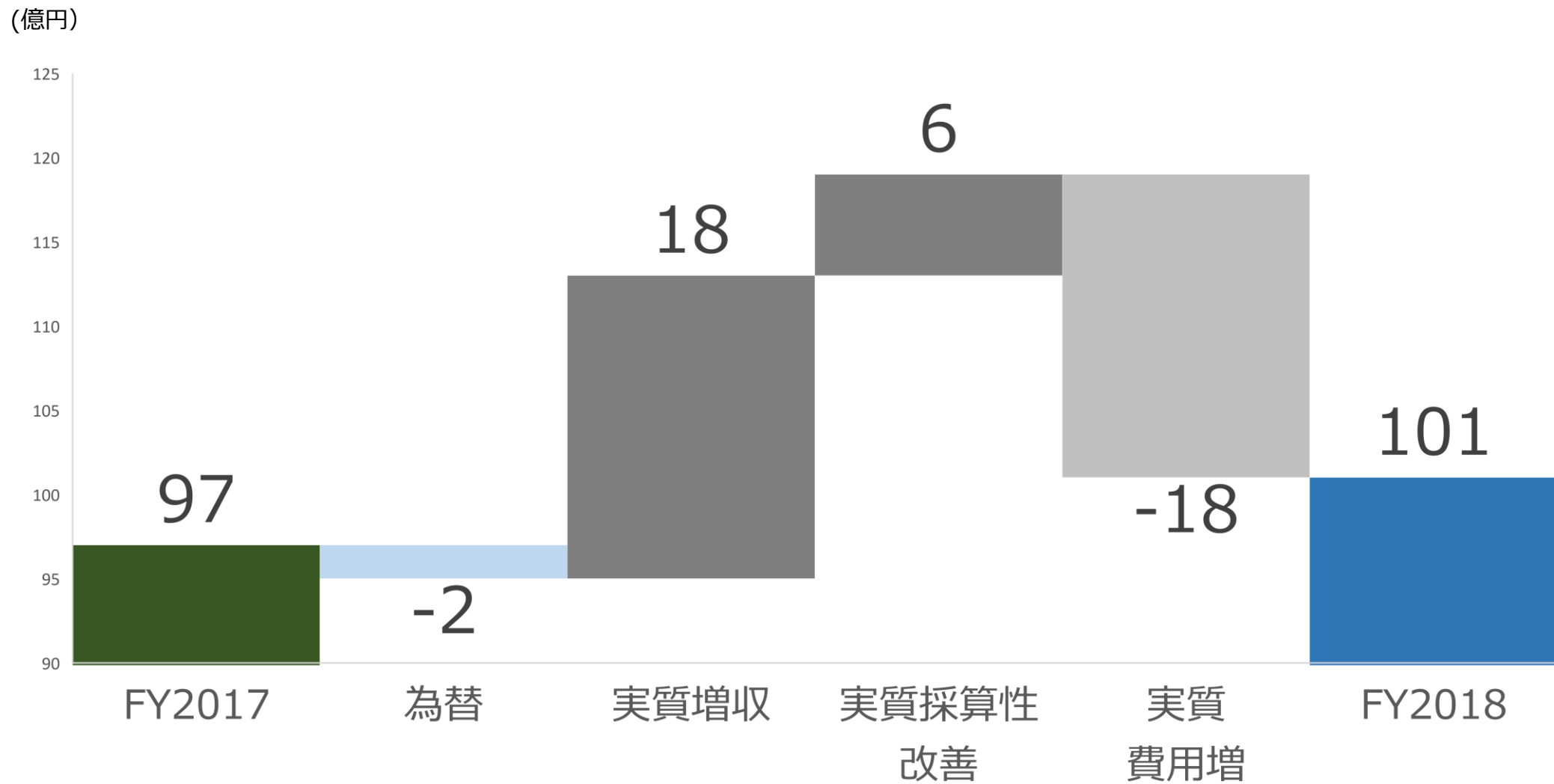
単位：億円	3 Q (10-12月)		前同比		除為替影響
	FY2018	FY2017	差額	率	前同比
売上高	954	913	+41	+4%	+5%
売上総利益	391	370	+21	+6%	+7%
(率)	41.0%	40.5%	+0.5pt	-	-
営業利益	101	97	+4	+5%	+6%
(率)	10.6%	10.6%	+0.0pt	-	-
経常利益	98	101	▲3	▲3%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	66	67	▲1	▲2%	-
米ドル平均レート (円)	112.97	113.03	▲0.06	▲0.1%	
ユーロ平均レート (円)	128.83	133.07	▲4.24	▲3.2%	

■ 為替影響
 売上高 ▲4億円
 営業利益 ▲2億円

■ 研究開発費
 38億円 (前同期39億円)
 ■ 設備投資
 37億円 (前同期35億円)
 ■ 減価償却
 30億円 (前同期27億円)

<為替感応度>
 米ドル：売上高 12億円・営業利益 4億円
 ユーロ：売上高 2億円・営業利益 0.7億円

營業利益增減要因 (10-12月)



セグメント別損益

単位：億円		3 Q (10-12月)		円ベース		除く為替影響
		FY2018	FY2017	前同比		前同比
				差額	率	率
計測機器	売上高	582	568	+14	+2%	+3%
	営業利益	89	86	+4	+4%	+6%
	(率)	15.4%	15.1%	+0.3pt	-	
医用機器	売上高	165	149	+16	+11%	+11%
	営業利益	2	0	+2	20倍	21倍
	(率)	1.5%	0.1%	+1.4pt	-	
産業機器	売上高	113	120	▲7	▲6%	▲5%
	営業利益	11	11	+0	+3%	+5%
	(率)	9.7%	8.9%	+0.8pt	-	
航空機器	売上高	69	62	+7	+12%	+12%
	営業利益	▲0	1	▲1	-	-
	(率)	▲0.5%	1.2%	▲1.8pt	-	-
その他	売上高	25	14	+11	+77%	+77%
	営業利益	5	4	+1	+39%	+39%
	(率)	17.4%	20.3%	▲2.9pt	-	
調整額	営業利益	▲6	▲4	▲2		
合計	売上高	954	913	+41	+4%	+5%
	営業利益	101	97	+4	+5%	+6%
	(率)	10.6%	10.6%	+0.0pt	-	

営業利益

計測：重点機種やアフターマーケット比率が向上
 医用：増収効果に伴う利益増
 産業：TMPの採算性改善やアフターマーケット比率の拡大
 航空：プロダクトミックスの悪化
 その他：増収効果に伴う利益増

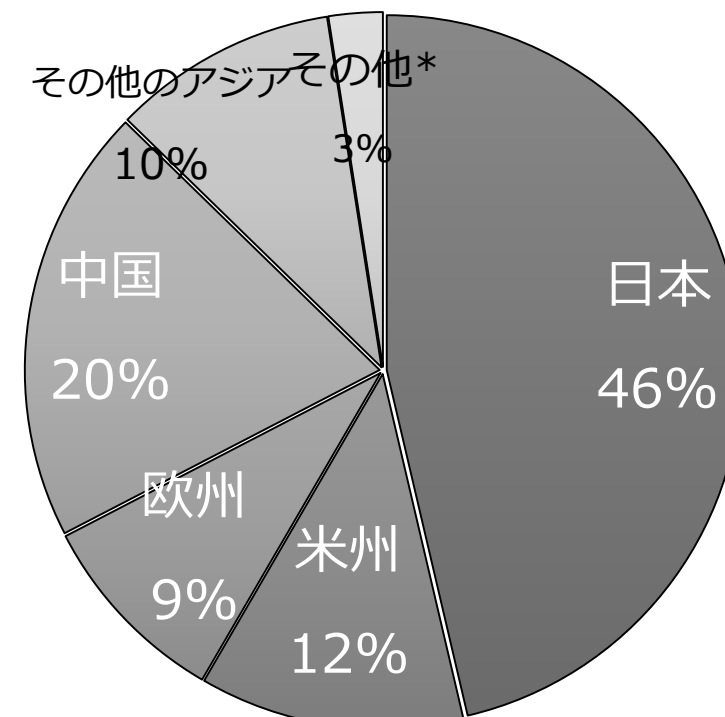
* 売上は外部売上
 営業利益率は外部+内部売上/営業利益で算出

地域別売上高

日本、欧州、その他アジアで増収となり、北米、中国、その他は減収

単位：億円	3 Q (10-12月)		除為替影響
	FY2018	FY2017	前同比
日本	442	417	+6%
米州	115	119	▲4%
北米	102	107	▲4%
欧州	86	74	+20%
中国	190	192	▲1%
その他のアジア	98	84	+17%
その他*	23	26	▲7%
合計	954	913	+5%
海外売上高	512	495	+4%
海外売上高比率	53.7%	54.3%	

地域別売上高構成



* オーストラリア
中近東・アフリカ

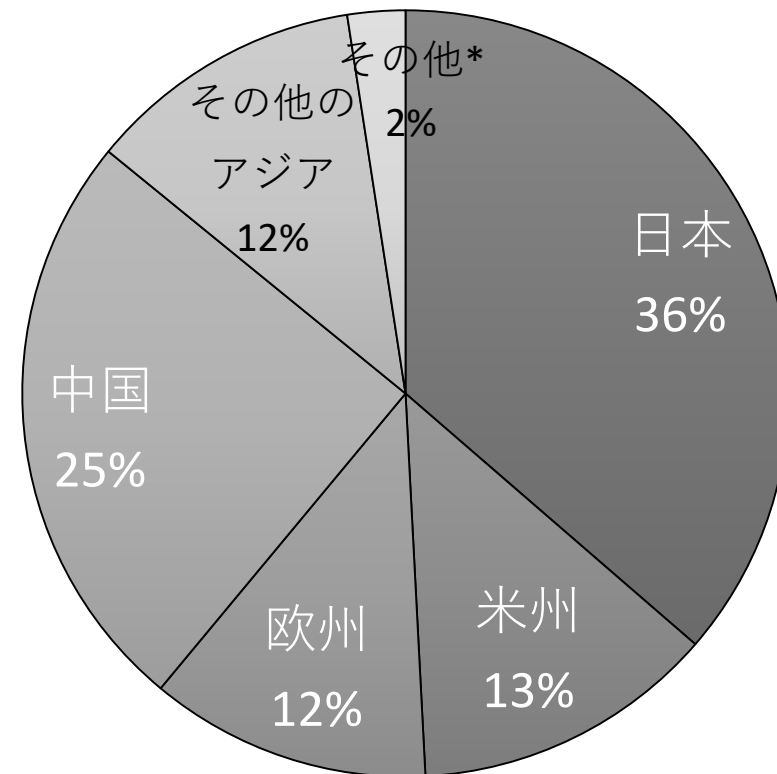
売上高前同比は為替影響を除いています

1. F Y 2018 3 Q決算
2. F Y 2018 3 Qセグメント別業績
3. F Y 2018 通期予想
4. 補足資料

計測機器セグメント(売上高1)

単位：億円	3 Q (10-12月)		除為替影響
	FY2018	FY2017	前同比
日本	212	221	▲4%
米州	75	70	+8%
北米	65	60	+9%
欧州	69	59	+19%
中国	145	141	+3%
その他のアジア	68	61	+12%
インド	23	22	+4%
その他*	14	17	▲17%
合計	582	568	+3%
海外売上高	370	348	+7%
海外売上高比率	63.7%	61.2%	

地域別売上高構成



* オーストラリア
中近東・アフリカ

売上高前同比は為替影響を除いています

計測機器セグメント(売上高2)

■ 計測機器売上高前同比 (除く為替影響)

FY2017				FY2018		
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
+7%	+8%	+9%	+10%	+12%	+3%	+3%

■ 主要地域売上高の状況 (除く為替影響)

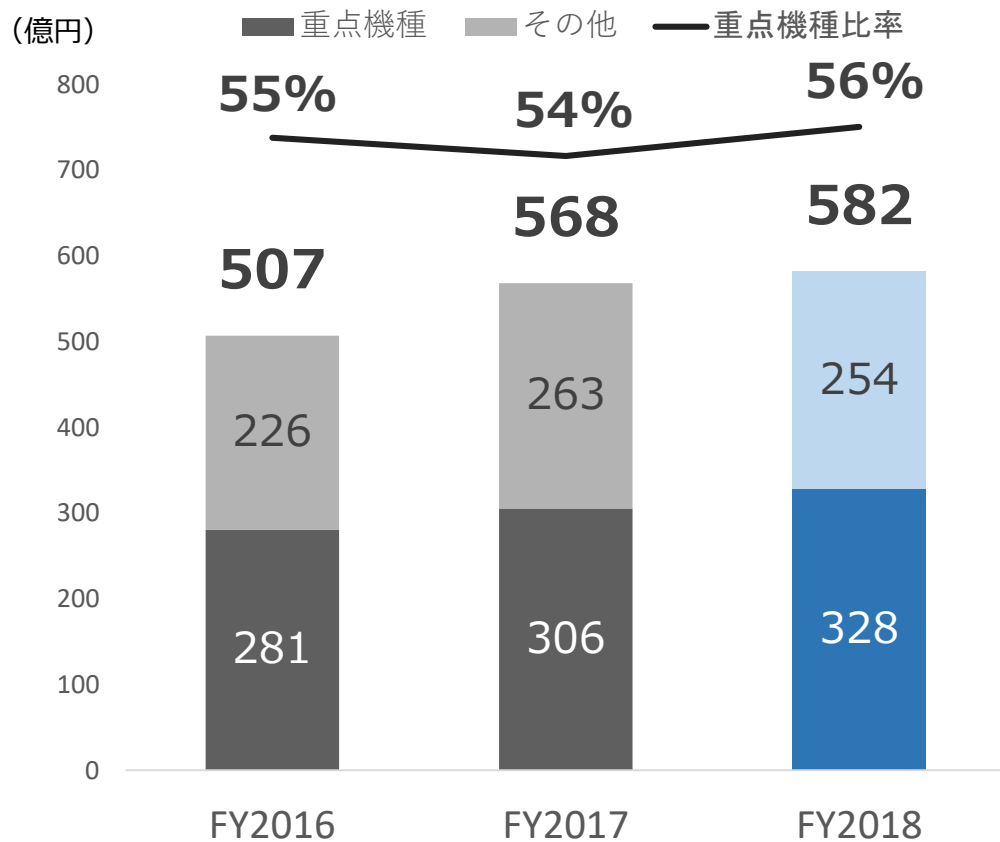
国	FY2018前同比			概況
	1Q	2Q	3Q	
日本	+15%	▲1%	▲4%	機械・自動車向けに試験機、非破壊検査が好調。前年移設大型案件の反動減あり。重点機種は軟調
北米	+17%	+14%	+9%	重点機種が好調に推移
欧州	+12%	+7%	+19%	重点機種、その他の機種も好調に推移
中国	+10%	+6%	+3%	官需が回復傾向にあり、重点機種が堅調。環境モニタリング装置は減速
インド	+5%	▲7%	+4%	中小製薬は厳しい状況が続くが、受託分析向けが堅調

計測機器セグメント(機種別売上高)

重点機種：3機種全てで増収

その他：試験機・非破壊検査が日本で好調

■ 機種別売上 (10-12月)



	FY2018	FY2017	前同比		除為替影響
			差額	率	率
重点機種	328	306	+22	+7%	+8%
その他	254	263	▲8	▲3%	▲3%
合計	582	568	+14	+2%	+3%
重点機種比率	56.3%	53.8%	+2.6pt		

■ 重点機種売上高前同比 (除く為替影響)

FY2017				FY2018		
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
+5%	+12%	+5%	+13%	+4%	+0%	+8%

* 重点機種：液体クロマトグラフ (LC)
質量分析計 (MS)
ガスクロマトグラフ (GC)

計測機器セグメント(アフターマーケット<AM>)

AM比率は、カラム等の消耗品のラインアップ強化により、前同比3ポイント改善

■ AM売上高前同比、AM比率

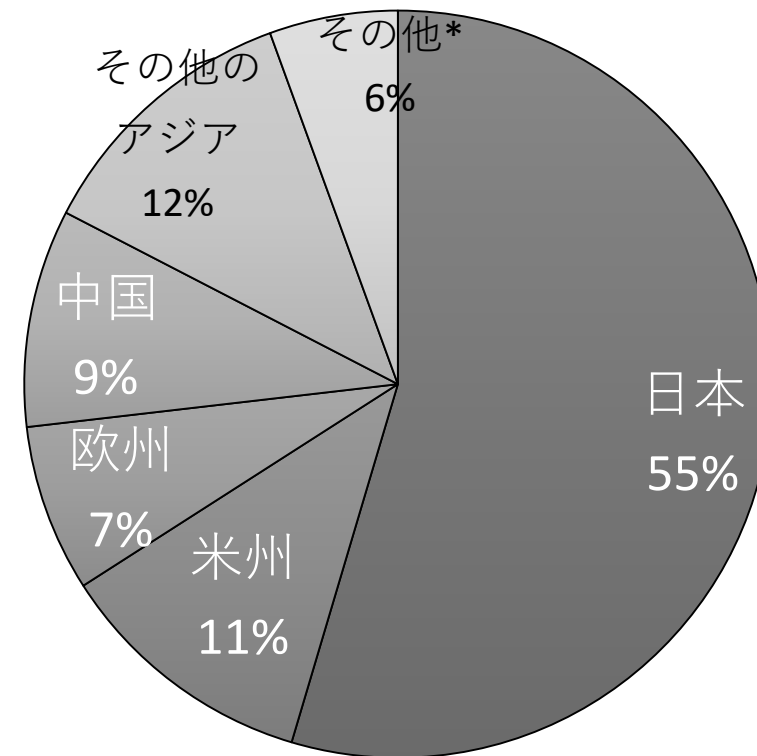
	FY2017				FY2018		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
AM売上前同比	+10%	+14%	+8%	+6%	+18%	+14%	+15%
AM比率	30%	27%	28%	26%	31%	31%	31%

* アフターマーケット：部品、メンテナンス、消耗品（カラム・試薬）等

医用機器セグメント(売上高1)

単位：億円	3 Q (10-12月)		除為替影響
	FY2018	FY2017	前同比
日本	90	75	+19%
米州	19	25	▲26%
北米	15	22	▲33%
欧州	12	10	+22%
中国	16	16	▲5%
その他のアジア	20	14	+45%
その他*	9	8	+13%
合計	165	149	+11%
海外売上高	75	73	+3%
海外売上高比率	45.4%	49.3%	

地域別売上高構成



* オーストラリア
中近東・アフリカ

売上高前同比は為替影響を除いています

医用機器セグメント（売上高2）

■ 医用機器売上高前同比（除く為替影響）

FY2017				FY2018		
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
+2%	+1%	+4%	▲2%	+8%	+6%	+11%

■ 医用機器主要地域売上高前同比（除く為替影響）

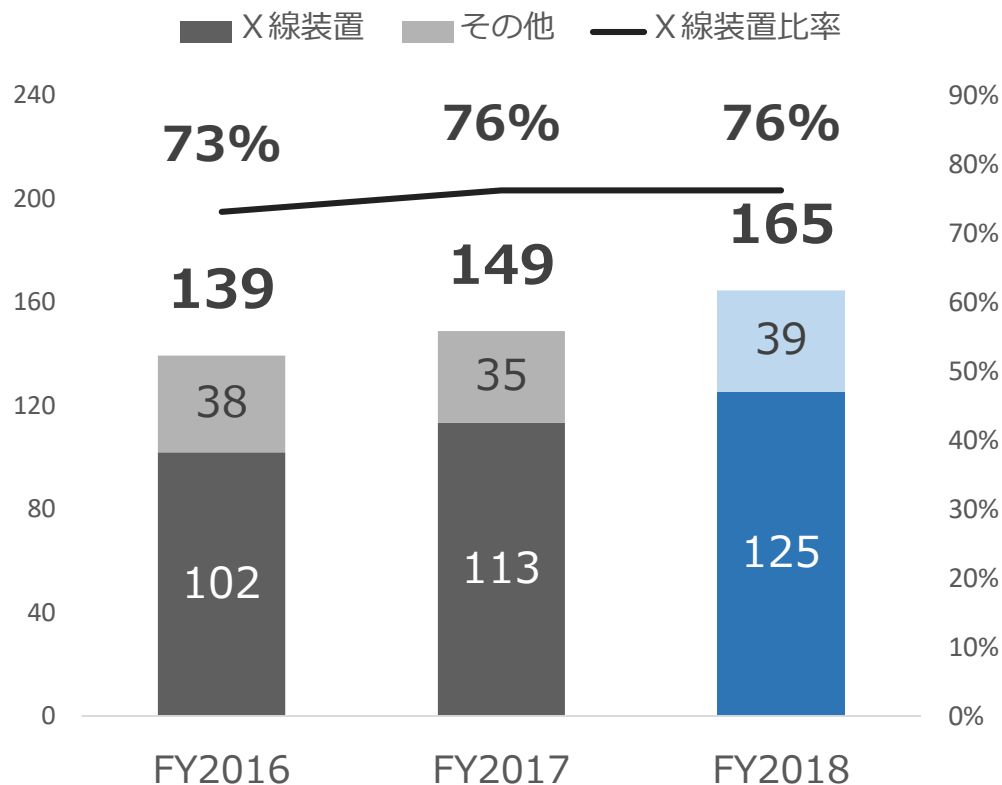
国	FY2018前同比			概況
	1Q	2Q	3Q	
日本	▲1%	+16%	+19%	診療所向けの一般撮影装置が好調に推移
北米	+17%	▲3%	▲33%	前年のデジタル特需の反動で、大幅減
欧州	+190%	+31%	+22%	血管撮影システムが牽引
中国	+1%	▲14%	▲5%	国産品優遇、地方政府債務増大による病院への設備投資減少、入札遅延等により減収
その他 アジア	+11%	▲2%	+45%	大型案件が牽引

医用機器セグメント(機種別売上高)

X線装置：一般撮影はアメリカにおける前年特需による減少を、好調な日本がカバーし大幅増収。血管撮影、X線TVは横ばい
その他：日本で治療支援システムの大口案件があり伸長

■ 機種別売上高 (10-12月)

(億円)



(億円)	FY2018	FY2017	前同比		除為替影響
			差額	率	率
X線装置	125	113	+12	+11%	+11%
その他	39	35	+4	+11%	+11%
合計	165	149	+16	+11%	+11%
X線装置比率	76.2%	76.2%	+0.0pt		

* X線装置：一般撮影装置、血管撮影システム
X線TVシステム

医用機器セグメント(アフターマーケット<AM>)

アフターマーケット比率は、30%台を確保

■ AM売上高前同比、AM比率推移

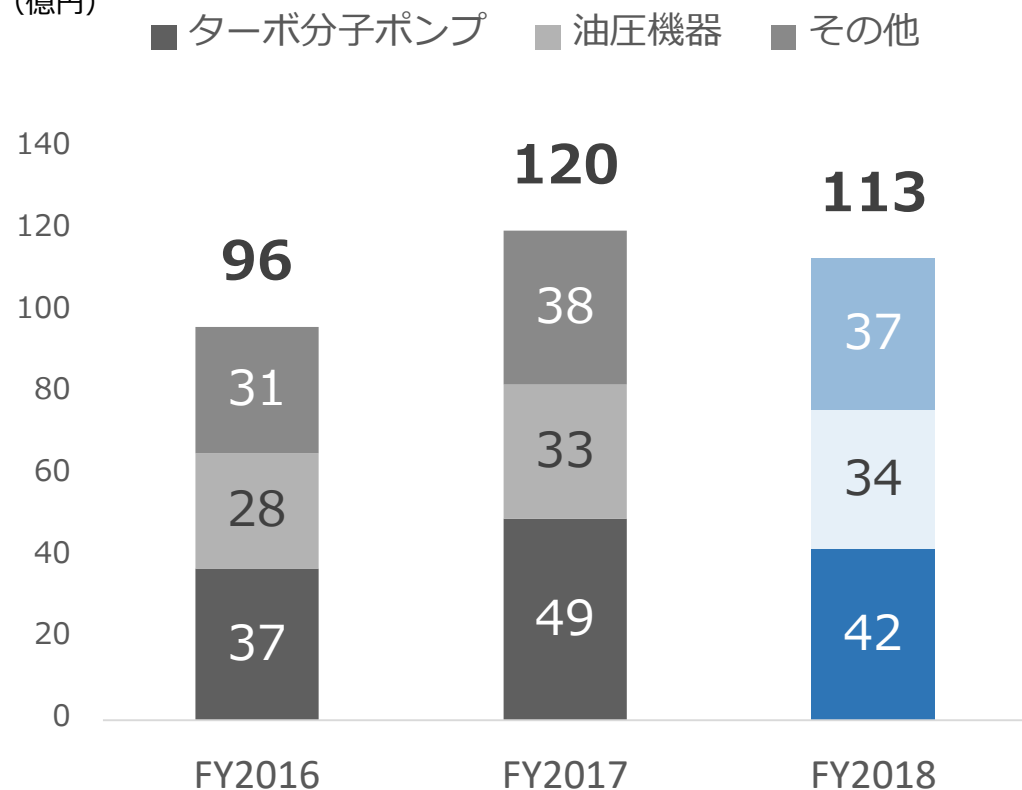
	FY2017				FY2018		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
AM売上前同比	+2%	+5%	+1%	+2%	+4%	▲2%	+5%
AM比率	33%	31%	31%	28%	32%	29%	30%

産業機器セグメント

TMP：半導体製造装置向け減少 **油圧機器**：堅調な需要を取込み、順調に推移
その他：超硬・セラミックス市場向け工業炉が好調に推移する一方、前年大型案件の反動でガラスワインダーが減少

■ 機種別売上（10-12月）

(億円)



(億円)	FY2018	FY2017	前同比		除為替影響
			差額	率	率
TMP	42	49	▲7	▲15%	▲15%
油圧機器	34	33	+1	+3%	+4%
その他	37	38	▲1	▲1%	▲1%
合計	113	120	▲7	▲6%	▲5%

産業機器セグメント(TMP)

- ・半導体製造装置向けが大幅に減少する一方、中国で薄膜太陽電池用コーティング装置向けが好調
- ・AM比率は、拠点拡充によるサービス強化等により7ポイント向上

■ TMP売上前同比 (除く為替影響)

FY2017				FY2018		
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
+62%	+34%	+30%	+16%	+14%	+0%	▲15%

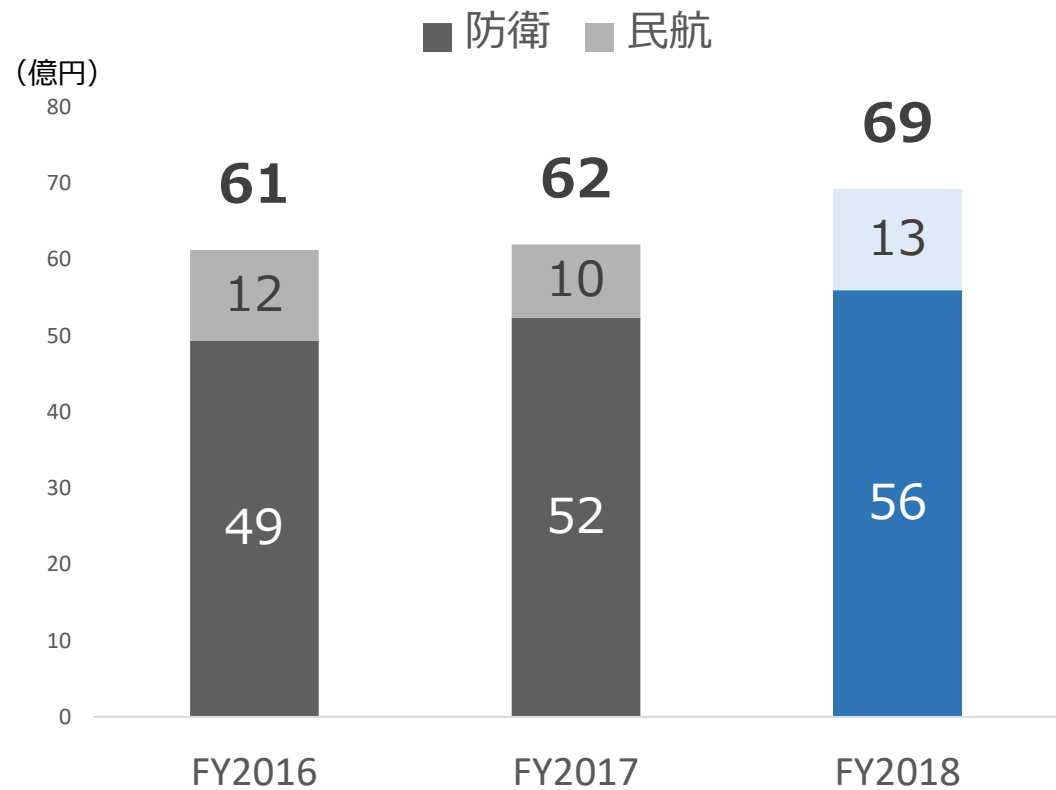
■ AM売上高前同比、AM比率推移

	FY2017				FY2018		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
AM売上前同比	+0%	+37%	+52%	+39%	+49%	+31%	+26%
AM比率	11%	14%	13%	14%	14%	18%	20%

航空機器セグメント

防衛：選択と集中を推進し、重点製品の哨戒機、輸送機向け部品が増加
 民航：ボーイング社向けが増加し、民航比率は3.9ポイント改善

■ 市場別売上 (10-12月)



(億円)	FY2018	FY2017	前同比		除為替影響
			差額	率	率
防衛	56	52	+4	+7%	+7%
民航	13	9	+4	+41%	+41%
合計	69	62	+7	+12%	+12%
民航比率	19.1%	15.2%	+3.9pt		

1. F Y 2018 3 Q決算
2. F Y 2018 3 Qセグメント別業績
- 3. F Y 2018 通期予想**
4. 補足資料

F Y 2018通期予想

単位：億円	通期		前期比		除為替影響
	FY2018	FY2017	差額	率	前期比
売上高	3,900	3,765	+135	+4%	+5%
営業利益	450	428	+22	+5%	+8%
(率)	11.5%	11.4%	+0.2pt	-	-
経常利益	440	419	+21	+5%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	320	298	+22	+7%	-
米ドル平均レート (円)	108	110.91	▲2.91	▲2.6%	
ユーロ平均レート (円)	130	129.75	+0.25	+0.2%	

- 研究開発費
175億円（前同期155億円）
- 設備投資
230億円（前同期172億円）
- 減価償却
117億円（前同期106億円）

<為替感応度>

米ドル：売上高 12億円・営業利益 4億円
ユーロ：売上高 2億円・営業利益 0.7億円

F Y 2018通期予想 (セグメント別)

計測・医用セグメントは変更していない
産業・航空・その他セグメントを変更している

単位：億円		通期		円ベース		ご参考 期初 公表値
		FY2018	FY2017	前同比		
				差額	率	
計測機器	売上高	2,410	2,316	+94	+4%	2,410
	営業利益	388	370	+18	+5%	388
	(率)	16.1%	16.0%	+0.1pt	-	16.1%
医用機器	売上高	695	659	+36	+5%	695
	営業利益	32	27	+5	+18%	32
	(率)	4.6%	4.1%	+0.5pt	-	4.6%
産業機器	売上高	452	442	+10	+2%	465
	営業利益	44	41	+3	+8%	44
	(率)	9.7%	9.2%	+0.5pt	-	9.5%

単位：億円		通期		円ベース		ご参考 期初 公表値
		FY2018	FY2017	前同比		
				差額	率	
航空機器	売上高	265	276	▲11	▲4%	265
	営業利益	6	5	+1	+25%	8
	(率)	2.3%	1.7%	+0.5pt	-	3.0%
その他	売上高	78	72	+6	+8%	65
	営業利益	10	9	+1	+12%	8
	(率)	12.8%	10.1%	+2.7pt	-	12.3%
調整額	営業利益	-30	-24	▲6	-	-30
合計	売上高	3,900	3,765	+135	+4%	3,900
	営業利益	450	428	+22	+5%	450
	(率)	11.5%	11.4%	+0.2pt	-	11.5%

事業環境・施策（計測）

日本・インドの事業環境が厳しい
好調な欧米、官需が回復傾向にある中国において収益拡大を図り、目標達成を目指す

国	事業環境	施策
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業の設備投資に減速感 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好調な一体型 L C の訴求や新製品の拡販
北米	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルスケア関連市場が引き続き好調 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルスケア関連市場の更なる強化
欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床・食品、ヘルスケア関連市場が継続的に拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製薬、臨床、食品・ヘルスケア関連市場へ注力
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 官需が復調傾向 ・ V O C 規制が19年7月1日にスタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府関連プロジェクト向けへの拡販 ・ V O C 計の拡販
インド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製薬会社の設備投資減が継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製薬以外の市場開拓を推進

事業環境・施策（医用、産業、航空）

医用：米中の事業環境は厳しく、日本も設備投資に減速感

産業：TMPは主力の半導体装置向けが厳しい

	事業環境	施策
医用	・ 日本：設備投資に減速感	・ 日本：X線装置の拡販やサービス売上拡大
	・ 北米：前年特需の反動に加え、病院グループの統合・吸収が進み、機器への投資に減速感	・ 北米：直販を強化し、顧客との関係性を強固に
	・ 中国：国産品優遇、入札遅延等厳しい環境継続	・ 中国：中国生産製品のラインアップ拡大・拡販
産業	・ TMP：半導体製造装置向けは厳しいが、 その他用途は堅調続く	・ TMP：半導体製造装置向けの開拓の継続や、 アフターマーケット売上の更なる拡大
	・ 油圧：一部市場に減速感があるが、総じて堅調	・ 油圧：新規顧客・市場開拓を推進しシェア拡大
航空	・ 防衛：横ばいから減少	・ 防衛：選択と集中の推進
	・ 民航：競争環境は厳しいが、中小型市場は拡大	・ 民航：コストダウン推進・新規顧客開拓を継続 検査ビジネスの推進

1. F Y 2018 3 Q決算

2. F Y 2018 3 Qセグメント別業績

3. F Y 2018 通期予想

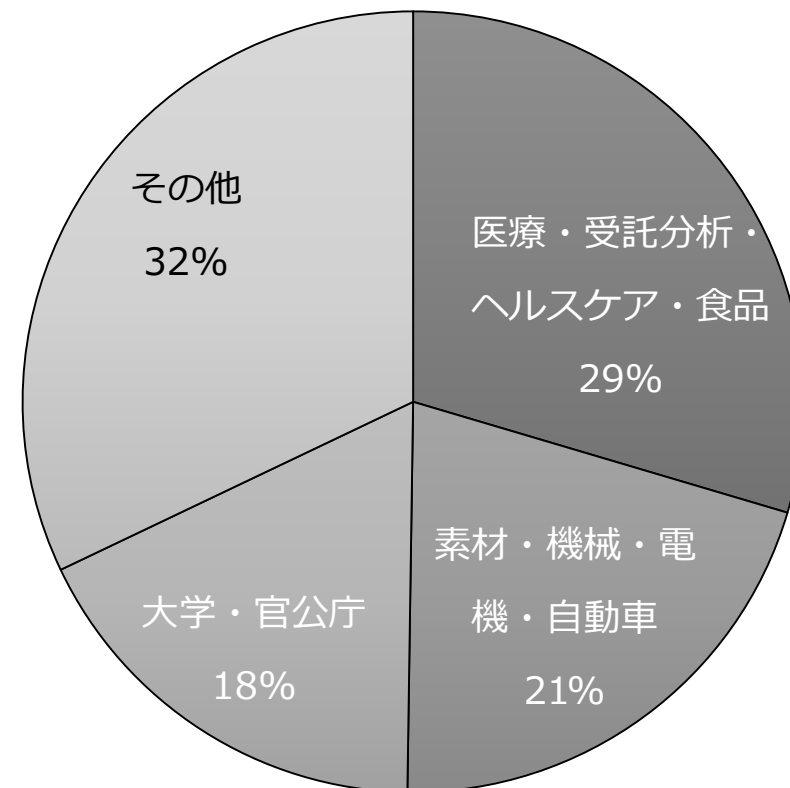
4. 補足資料

エンドマーケット（計測）10-12月

医薬・受託分析等：受託分析はグローバルで好調に推移、医薬は中国・欧州が好調
素材・機械等：市況も活況で好調に推移 **大学・官公庁：日本の不振が継続**

	前同比	備考
医薬・食品 受託分析・ ヘルスケア・	+4%	受託分析は好調に推移 医薬は欧州が好調で、中国も回復 傾向、全体でもプラス
素材・機械・ 電機・自動車	+5%	石化・鉄鋼・機械等多くの分野で 好調
大学・官公庁	▲6%	日本が大きくマイナスとなり、全 体でもマイナス
その他	+7%	分析機器を使用する顧客の裾野の 広がりによる

売上高構成比



損益計算書 (4-12月 9か月累計)

単位：億円	3 Q累計 (4-12月)		前同比		除為替影響
	FY2018	FY2017	差額	率	率
売上高	2,782	2,633	+149	+6%	+6%
売上総利益	1,113	1,041	+72	+7%	+7%
(率)	40.0%	39.5%	+0.5pt	-	-
営業利益	276	254	+21	+8%	+8%
(率)	9.9%	9.7%	+0.2pt		
経常利益	285	257	+28	+11%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	195	180	+14	+8%	

- 研究開発費118億円
(前同期110億円)
- 設備投資 140億円
(前同期104億円)
- 減価償却 86億円
(前同期 79億円)

米ドル平均レート (円)	111.20	111.77	▲0.57	▲0.5%
ユーロ平均レート (円)	129.53	128.58	+0.96	+0.7%

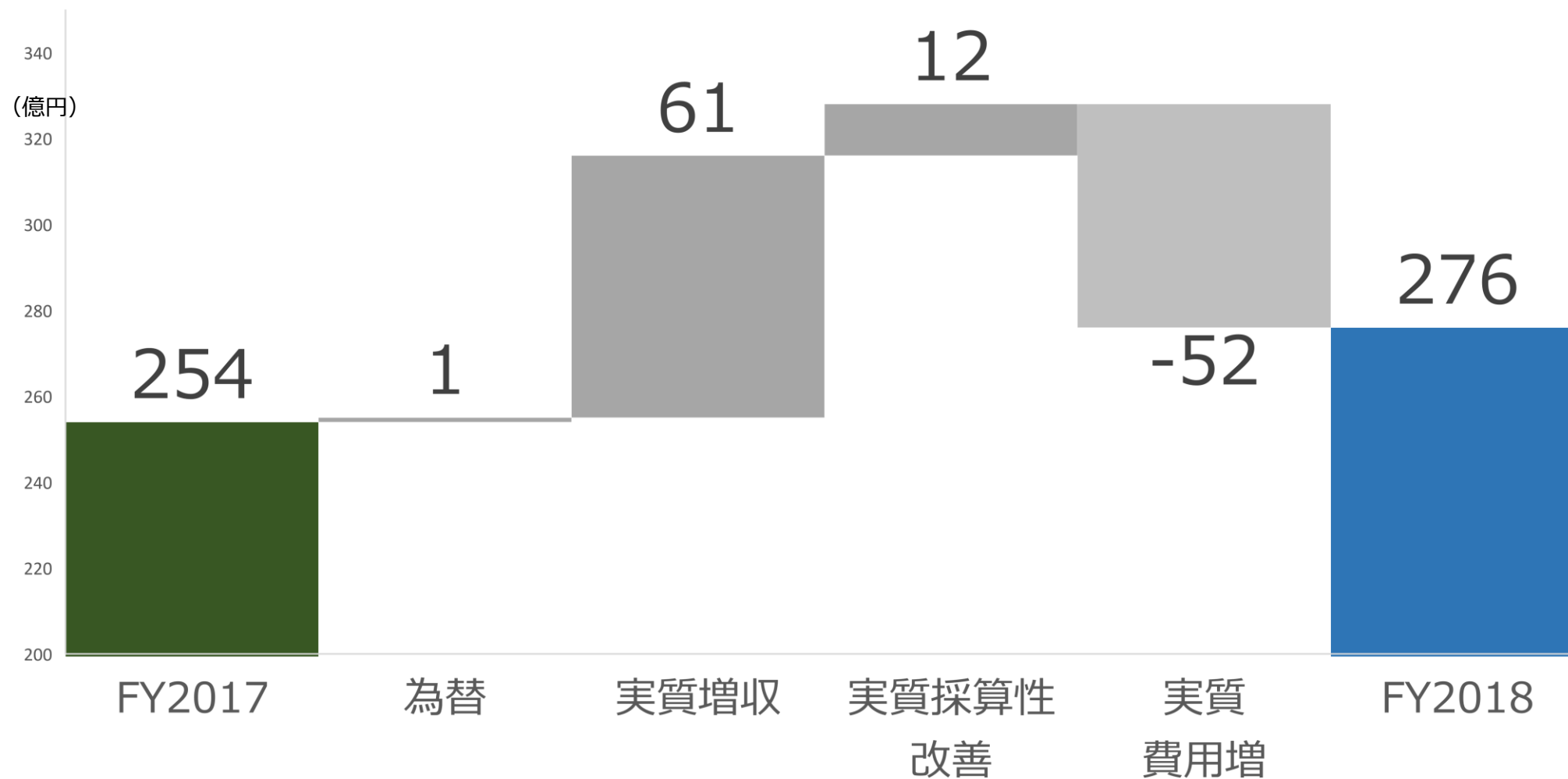
<為替感応度>

米ドル：売上高 12億円・営業利益 4億円
ユーロ：売上高 2億円・営業利益 0.7億円

セグメント別業績（4-12月 9か月累計）

単位：億円		3Q累計（4-12月）		円ベース		除為替影響
		FY2018	FY2017	前同比		前同比
				差額	率	率
計測機器	売上高	1,693	1,609	+84	+5.2%	+5.5%
	営業利益	245	229	+16	+6.9%	+6.6%
	(率)	14.5%	14.3%	+0.2pt	-	
医用機器	売上高	491	455	+36	+7.9%	+8.2%
	営業利益	9	7	+3	+37.4%	+36.8%
	(率)	1.9%	1.5%	+0.4pt	-	
産業機器	売上高	341	325	+16	+5.1%	+5.2%
	営業利益	33	29	+4	+12.8%	+13.9%
	(率)	9.7%	9.1%	+0.7pt	-	
航空機器	売上高	193	194	▲0	▲0.1%	+0.1%
	営業利益	▲2.7	▲1.5	▲1	-	-
	(率)	-1.4%	-0.8%	▲0.6pt	-	-
その他	売上高	64	51	+12	+23.9%	+23.9%
	営業利益	7	5	+2	+46.6%	+46.6%
	(率)	9.4%	7.8%	+1.6pt	-	
調整額	営業利益	▲17	▲14	▲3		
合計	売上高	2,782	2,633	+149	+5.7%	+5.9%
	営業利益	276	254	+21	+8.4%	+8.2%
	(率)	9.9%	9.7%	+0.2pt	-	

営業利益増減要因（4-12月 9か月累計）





本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所 経営戦略室 IRグループ
電話：075-823-1673 E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp